

舞台批評

混声合唱団CORMI

音楽の楽しみ方は多彩だ。音楽家・飯田みち代が主宰、井崎正浩が音楽監督を務める混声合唱団CORMIの第3回コンサート（5月26日・東海市芸術劇場）に出掛け、そのアイデアと優れた音楽性に感心した。

同団の演奏は、器楽やオーケストラのために書き下ろされたクラシックの名曲（抜粋）に讃美の歌詞（ラテン語）を乗せ、オーケストラと共演するというユニークなもの。

前半は、サン・サーンス「動物の謝肉祭」水族館や、マーラーの交響曲第5番「アダージェット」など7作を披露。美しい旋律と神秘的な声のハーモニーに至福の時を過ご

古典の名曲に至福のハーモニー



CORMIのステージ（東海市芸術劇場）

した。

コンサート後半はボブ・ディラン（英国）がピアノトリオのために作曲したリトル・ジャズミサに讃美の歌詞を乗せたゴスペル風組曲。ソリスト、コーラス、オーケストラ、それぞれが持ち味を発揮し、ゴージャスな音楽空間を創造した。

器楽曲に歌詞を乗せるのは容易なことではない。

まず歌詞を乗せてもイメージを損なわない楽曲をセレクトする必要があ

り、主旋律をコーラスに委ねるために大幅な編曲が必要になる。公演までには幾多の試行錯誤があったと推測する。次回公演も楽しみだ。